

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	思考力を育てる国語教育（2011年）
Author(s)	浜本, 純逸
Citation	国語教育思想研究 , 27 : 64 - 68
Issue Date	2022-12-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053348
Right	
Relation	



一 はじめに

—教育・国語科教育の課題—

21 世紀は、私たちの一人ひとりに、確かな思考力と豊かなコミュニケーション能力を求めている。国語教育には、言語による思考力とコミュニケーション能力の育成が期待されている。

その期待に応える方向で、「改定・学校教育法」は、「学力」を次のように規定している。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならない。

(『学校教育法』 第三〇条第二項)

この条項は、人びとが 70～80 歳代まで学習するいわゆる生涯学習社会を見通して、絶えず新しい情報を受信し発信しつつ生き、新しい課題を解決して生きるためには、思考力・判断力・表現力が大事だということを提起していた。そして今、2012 年現在のこととして考えると、思考力・判断力・表現力の育成はいっそう切実な教育課題となってきた。

20 世紀後半の競争と生産性向上の追求は、2009 年に国際的な市場主義経済の行き詰まりと、世界の人々の 1 パーセントと 99 パーセントとの間に大きな経済的格差をもたらした。それに加えて、2011 年 3 月の東日本大震災は、東京電力福島原子力発電所の原子炉爆発を誘発し膨大な放射性廃棄物をもたらした。目に見えない放射能は、日本人だけでなく人類に数百年にわたる課題を背負わせることになった。私たちは、「放射能」を日常語として生きなければならないのである。

このような事態は、私たちの常識を大きく覆した。3.11 以後、「価値観を変えなければならない」、

「幸福とは何だろう」、「生きる意味とは何だろう」と、これからの生き方について根本から考え直すことを促されている。幸福をもたらす価値観とは何か、それを実現するにはどのような方法があるか、問い直さなければならない。

これからは、「言葉で考える力」を育てることが教育の課題であり、国語科の課題である。国語科は、人間の生き方や社会の仕組みについて深く鋭く考える「言葉」を身につけさせる教科であり、そのための「言葉のまなび方」を学ばせる場である。

思考力を育てるために、まず思考力の内容を解明し、次いで指導方法を究明していきたい。

二 思考の型と思考の要素

1. 思考力とは

『日本語大辞典』(梅棹忠夫他編、講談社 1987)は、思考力 (thinking) を、「ある結論を得るまでの観念の過程」と定義している。これに従うと、「観念の過程」には、アブダクションといわれる直観的・仮定的に考える過程と、イメージによって考えを進める像的思考の過程、及び論理によって探求していく過程の三つの過程がある。

アブダクションの要素は、見る・感受・直感などであり、像的思考の要素は、比喩・描写・人物・視点・事件などであり、論理的思考の要素は、比べる・分ける・推論・立場・まとめる・構造・総合などである。

2. 思考の要素と指導の系統化

これまで、私は、「アブダクション」・「像的思考」・「論理的思考」の三つの型に分けて、その要素間の関係と構造の大枠を提案してきた。これからは、これらの諸要素の下部構造を解明し、発達と習得の観点を加えて、思考力育成カリキュラムの準拠枠(フレームワーク)を作りたいと考えている。ここでは、その試案表を掲げて建設的批判

をおおぐことにする。

	b 像的思考	a アブ ダク シヨ ン	c 論理的思 考	
小 1 ・ 2 年	想像する 名づけ 擬音語 擬 態語 たとえ 直 喩、 隠喩(メタフ ァー) さし絵 時 所 人 物 描 写 分ける 対比 比喩 (連想・類 似) つなげる	見る 感 じ る 感受 直感 観点	思う 感想 言葉化(範 疇化) 分ける(分 類) 選択 比較(連想・ 対比・類似) まとめる	単 語 文
小 3 ・ 4 年	推量 虚構 ・ 関連づけ 順序 変化 構成 作者 語り 手 視点 題名づけ	仮定 マ ッ プ	推測 立場 分析・総合 (表 題 づ け) 構造化(順 序 時間 空間) 論理化(一 般一具体) (原因一結 果、意見一 根拠) (帰納・演 繹)	文 章
小 5 ・ 6 年	意味づけ 象徴 ・ ユーモア 味わう		推論 価 値 づ け 判断 批判	
中	形象 表象	仮説	批評	

学	鑑賞 批判 あいまい(多 義性) アイロニー			
		経 験 教 養		

「改定・学校教育法」の求める学力(思考力・判断力・表現力)の基底にあるものは、価値観である。何が正義であり、何が善であり、何が美であるか、問い続けて凝縮されたものが価値観であろう。それは、豊かな体験と文化の習得とに包まれた価値観とも言えるであろう。この試案表では、「経験」と「教養(コンモンセンス)」を「思考力」の根源に位置づけている。

三 造語力の育成

私たちは、新しい事態に出会ったとき、それに見合った言葉を探す。適切な言葉が見つけれないならば、それに対応する言葉を造りだして対応していく。東電原子力発電所の事故を契機に、これからの原子力発電のあり方について私たちは深刻に考えるようになった。放射能汚染という地球規模の問題に直面して、

- ・反原発
- ・脱原発
- ・卒原発
- ・減原発
- ・親原発

などの新しい言葉を造って対応しようとしている。「原発」という語の上に一字を付けることによって新しい事態をとらえようとしているのである。造語によって新事態を創造的に把握することができる。

上に挙げた語は、造語法としては、□+□□の型である。

さらに、
記録的
質問力
普遍性、など

□□+□の型 もある。

三字の熟語を集めたり、作ったりしてみたい。

和語の場合(例「合う」)は、
 出合い □+□□ 似合い
 助け合う □□+□□ 分け合う
 助け合い 分け合い
 ゆずり合う □□□+□□□ 分かち合い
 ゆずり合い 分かち合う
 などと組み合わせ、造語されてきた。「分かち合う」は□□□+□□の型である。

二つの和語を組み合わせることによって深い意味や微妙なニュアンスを表現することができる。

私は、17年前の阪神大震災に出遭ったとき、「悲しみを分かち合えば悲しみが小さくなり、喜びを分かち合うと喜びが大きくなる」ことを知り、「分かち合う」という言葉の力を実感した。

造語は言葉による思考力の一要素であり、創造的な表現である。造語力の育成が国語科教育の一部面であることに留意しておきたい。

四 思考力育成の方法

どのように思考力を育てていくか。小学校と中学校の事例を考えてみたい。

小学校の場合

一年3学期に説明文「歯がぬけたらどうするの」(T社一学年下 95 p)が採録されている。

この説明文は、「せかいの子どもたちは、ぬけた歯をどのようにしているのでしょうか」という問いかけの文で始まり、7カ国の風習が紹介されている。教科書は、7時間配当で、二つの「手引き」がつけられている。

◆どんなやりかたがあるかをたしかめながら読みましょう。

◆自分ならどうするかを書きましょう。

読解と表現との関連指導をする「手引き」である。言語活動を通して子どもが学習の主体となるように配慮されている。

私はこの学習活動に加えて、情報を取り出す力とそれを分類する力、報告する力を育てたい。次のような、二時間配当の指導案を加えて読書指導へと開いていく単元的展開を試みる。この教材の出典となった『はがぬけたらどうするの』(フレーベル館)の複本を学習材とする。

単元 分かったことを発表しよう

指導目標

- 1 楽しみながら一冊の絵本を読み通す。
- 2 必要な情報を取り出す力を育てる
- 3 ある観点から情報を分類する経験をさせる。

計画

- 1 「歯がぬけたらどうするの」(フレーベル館)を配布し、観点を決めて調べさせる。(となりの児童との協同活動) …… 1時間
- 1) 「歯がぬけたらどうするか」について、十二の地域に分けて 65 の国や民族の風習が説明されていることを紹介する。
- 2) 教科書で説明されている国は、それぞれ何頁にあるか、頁を繰りながら教える。
- 3) 十二の地域から一つを選んで、「どんなことがわかりましたか?」と問いかけて、分かったことを発表させる。
- 4) 発表内容の観点(「①すること」・「②何に」・「③ねがいごと」)を教える。

教科書の読解で、「①くに」・「②すること」・「③いうこと」の観点からの情報取り出し法を学んでいるので、その活用編である。

○時間があれば、観点を話し合いで決めることもできよう。

5) 選んだ地域の「歯がぬけたらどうするか」について読みとり、メモさせる。

2 分かったことを発表させ、音読させる。 …… 1時間

1) 「きたアメリカ」ちいき、「ちゅうおうアメリカ」ちいき・・・と順に、各観点に分けて発表させる。

○アニメーション形式で報告させるのもよい。

例「コップに入れる国は、①カナダ・②アルゼンチン・③エジプトのどこでしょう。」

2) 分担した地域の中で「おもしろい」と思った「しかた」を紹介させる。

3) その国についての説明文を音読させる。

中学校の場合

次のような大村はま先生の実践に学びたい。

大村はまは、すでに昭和8年に「学習ノートの指

導」を始め、「国語勉強の仕方」に習熟させようとしていた。その「内容を深めるヒント」は、思考を深める観点を与える「手引き」であった。学年の初めに大村はまは「評点の項目三種十二類」を与えている。

一、努力

- 1 書くこと
- 2 貼るもの
- 3 予習始末
- 4 答案始末
- 5 句読点

二、学力

- 1 文字の正確さ
- 2 内容
- 3 感想

三、たしなみ

- 1 帳面取扱
- 2 文字の美しさ
- 3 整理
- 4 貼り方

二の2の「内容」は、例えば、『蜘蛛の糸』の「場面一」と「場面三」の文章を比較する課題である。

一、一と三の文について、書いてある事柄、その書いてある順序、文の調子なども比べて、どんなに、この一と三の文がしっかりと合ってみるか説明してごらんください。

二、「……のやうに」といふ形容してみる語を書き抜き、何を(又はどんなことを)、形容してあり、どんなによく言ひ表はされてみるかを、画きなさい。(あるだけ皆)

次は、一人の生徒の答案である。まず第一の課題について。

一段 蓮池のふちを……いらっしやいました。

三段 又ぶらぶらお歩きになり始めました。

一〃 蓮の花は、みんな玉のやうに……溢れてをりました。

三〃 玉のやうな……あたりに溢れ出ます。

一〃 極楽は丁度朝でございました。

三〃 極楽ももうお午に近くなりました。

右のやうに一と三の文の調子がしっかりと合っている。

〇一に書いてあることは、皆三に出てくるといふやうに書いてあるので、一と三とがしっかりと合ってみて、離れません。文の調子やことばまで似てみますが、その中にも時のたつこと、お釈迦様のお心持のちがふ所は現れてみます。又前と後とにこんなに美しく極楽を書いたので、中の地獄がよけい暗く恐しく思はれます。(注野地潤家「国語教育実践の展開事例」『近代国語教育史研究』平成二三年二月一日溪水社 四九八~五〇〇頁)

場面一と場面三の文章を較べる学習において、三つの観点(ヒント)を示している。これは、大村はまにおける「学習の手引き」の萌芽といえよう。

「答え」を教えるのではなく、生徒自らが「答えを見いだす」活動へと導く手引きを与えているのである。この場合、その方法が「比べる(対比する)」であることに注目しておきたい。

二の課題については、答えの 3,6,8 を引用すると、次のとおりである。

3、水晶のやうな(池の水)

〇いかにも極楽の水という感じがする。あまり美しくすきとほってみるので、この世の水と同じ水に思へない。

6、死にかゝった蛙のやうに(血の池にむせんでみる鍵陀多)

〇ほんたうにぐったりして、たゞぼかぼか浮いている感じがする。

8、蟻の行列のやう(鍵陀多の後から上ってきた罪人たちの様子)

〇蟻といふ小さな動物の名前でいかにも隙間のない感じがする。

〇数へ切れない程沢山といふことが思はれる。(注同上 501 頁)

「描写」を読みとる課題が出されている。「……のやうに」といふ形容してみる語を書き抜き、何を(又はどんなことを)、形容してあり、どんなによく言ひ表はされてみるか」という作業の提示に導かれて、生徒は叙述に即して情景を想像し、豊か

に感じ取っている。情景をイメージし、その描写から受ける「感じ」を細やかに述べている。

「描写」を読みとる力を育てるヒントの出し方に学ぶことが多い。

五 おわりに

物事に出会って、多様な可能性を検討した上で、いずれの道(生き方・方法)を選ぶか、その「判断」を支えるものは、価値観である。AかBか、甲か乙か丙か、そのいずれかを選択する価値観(規準・スタンダード)を育てたい。

試案に関して、思考力の根源にあるものは、豊かな体験と文化の習得に包まれた価値観であろう、と述べた。価値観を包み込む「教養・コンモンセンス」を育てていくのである。

2011年三月の東日本大震災と原子力発電所の水素爆発を知った私は、これからの価値観は、生命を大切にすることと助け合って生きようとする「分かち合い」のころころであろう、と考えている。このような「教養(コンモンセンス)」を求める言葉の力を育てるようにしたい。

*本稿は、日本国語教育学会第74回(2011年8月)大会シンポジウムⅠにおける提案・「思考力を育てる言語活動のために」に加筆したものである。

編集部注 初出
(未刊行)